

健康と生きがい・シニアライフを考える

海風

特定医療法人社団
社会福祉法人

松涛会広報誌

No.36 盛夏号
平成25年



松涛会理念

医療・介護・福祉の連携により地域社会に貢献いたします。
～あなたの喜びが、私の生きがいです～



特定医療法人社団
松涛会

在宅医療・介護保険相談センター

- ヘルパー
- ナイトヘルパー
- 居宅介護支援事業所
- 訪問看護
- 訪問リハビリ



目次

ごあいさつ

斎藤理事長ごあいさつ

山の田内科 佐田院長挨拶

職員寮「トレド松涛」供用開始

在宅医療・介護保険相談センターオープン

「老人保健施設コスモス」の移転計画

有料老人ホーム「バーデンバーデン」新築へ

松涛会の取り組み紹介

□から食事が取れなくなったらどうしますか？

個々に合わせた外出支援

第1回松涛会リハビリテーション研究会開催

安岡病院「外来糖尿病予防教室」の開催

平成25年度第1回外来教室開催

山口県病院協会優良従業員表彰

地域連携室の再編について

福祉ニュース

笑顔あふれる菖蒲見学

手作りパン教室

ゆめシテイへ行こう

ねぎぼうず十周年を迎えて

認知症サポーター養成講座と介護保険勉強会

下関市と釜山広域市との民間サイド

における松涛会との活発な交流活動

「夏祭り」を終えて

平成24年度資格取得者一覧

「フロイデ金比羅」オープン!!

韓国青少年ボランティア来関

地域と共に地球環境活動

社会福祉法人 松涛会

平成24年度決算報告



特定医療法人社団
社会福祉法人
松涛会 理事長

斎藤 正樹

高齢時代を迎えて、更に三つの福祉施設が誕生します。

本年六月に、横野町のセブンイレブンの跡地に「在宅医療・介護保険相談センター」をオープン。訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ、ナイトヘルパー、在宅介護支援等の事業を行います。また、その隣地に老人保健施設が

移転、有料老人ホームを併設します。

来月四月、金比羅町に「プロイア金比羅」が開設予定。多目的施設で、特別養護老人ホーム、ショートステイ、グループホーム、居宅介護、サービス付き高齢者住宅等です。

次の十二年後の巳の年(平成三十七年、二〇二五年)には、昭和二十二

年(二十四年の第二次ベビーブームに

生まれた団塊世代の人達が後期高齢者となり、高齢者比率は三十%。

終戦後十年経た昭和三十年の五%の六倍に達し、右肩上がりの伸び率となります。

多くの慢性疾患への対応は、病院では処理出来なくなり、施設、在宅への利用が増大するのは火を見るより明らかです。

松涛会は時代を先取りして前進します。各各位のご協力を切にお願いします。



山の田内科 院長
佐田 英明

六月一日から山の田内科の一員になりました。実際には五月からクリニックに勤め始めているので、だいぶ慣れたところ。当初、クリニックの患者さん方と意思を合わせるのに苦労しました。たとえば、耳が遠くて目が近い、足腰が悪く動作は不活発で物忘れは活発。そして「左半側空間失認」の方がとても多いのに驚きました。

解剖学的に脳の左右と体の左右は逆向きに対応するので、ある側の脳の

障害は反対側の機能の障害になります。

左右の半球のうち、知的活動や運動行為を担当するのは主に左半球です。右半球はイメージや情感の醸成、空間認識に関与します。

右半球のちようと頭頂部、後頭部の境界あたりが空間認識の部位です。たまたま右脳のその場所が脳梗塞などで障害されれば奇妙な症状が現れます。左半側空間失認です。患者さんは自分の左側に空間が存在することに気付かなくなり

ます。患者の視覚や意識は自分の左側には向かなくなるのです。左側にいる人から話しかけられるとうろたえます。音は両耳に届くのに、自分が意識できるのは右側空間で、そこには誰も居ないからです。食卓で左側に料理を置く、「ご飯ちょうだい」を繰り返します。私にとって、かつては書物の中のことでした。

松涛会にはご縁があります。母は松涛会の施設に入居しています。他界した父の「さだまさし」は安岡病院の医師でした。釣りの合間に診療していた人物でした。因果は子に報い、息子は寝る間を惜しんで勤務です。

職員寮「トレド松涛」 供用開始

安岡病院
事務長 松井 利三

今般、松涛会としては初めての試みで、職員寮「トレド松涛」(3F・2DK・9室)を建設し、平成25年4月1日より供用開始いたしました。

場所は、横野町1丁目6-28で中心住宅地。病院まで約500m。

松涛会の福利厚生面の更なる充実化と優秀な人材確保を補完する上から建設しました。

「トレド」はスペイン中央部の都市で、トレド大聖堂など旧市街全域が「古都トレド」として世界遺産に登録され、世界中の人々に親しまれています。

古代ローマ時代からの悠久の歴史に思いを馳せると、優秀な人財の輩出なしには現在を語ることは出来ないことから、

松涛会においても、末永く人財の輩出を願って、「トレド松涛」と命名しました。



在宅医療・介護保険 相談センターオープン

在宅医療・介護保険相談センター
安岡拠点長 飯田 哲

コスモス訪問看護ステーション
事業所長 大本 信恵

在宅医療・介護保険の相談窓口として国道沿いに相談センターの開設と同時に、四つの事業所が移転しました。主治医の指示の元、安心できる自宅療養を支援する訪問看護。在宅生活に寄り添う訪問介護。夜間帯の介護にはナイトヘルパー。あなたらしさをケアマネジメントする居宅介護支援事業所があります。山の田拠点、彦島拠点は幹線沿いにあり、人目につきやすい立地条件です。本部からも幹線沿いに出ることにより、地域にアピールできる拠点として活動いたします。介護保険制度では、要支援者の予防給付を地域支援事業所へ移行しようとする議論もされております。行政と地域と私たちが、緊密に連携しあうネットワーク作りをしていく事が、重要と思っております。どなたでも立ち寄り相談しやすい雰囲気づくりを目指しておりますので、お気軽に声掛けをしてください。

山口県は、少子化と高齢者社会を全国より10年早くそのピークを迎え高齢者単独世帯割合は全国第4位、高齢者夫婦のみの世帯割合では全国第1位の多さを誇っており、今後もこの傾向はしばらく続くこと評価されていることから、地域における医療と介護の橋渡しの役割を中心に担う訪問看護のニーズはますます高まっています。相談センター内のホームヘルパー、ナイトヘルパー、在宅介護支援事業所とていままま以上に連携を深め、地域の重要な役割を務めてまいりたいと思っております。

安岡居宅介護支援事業所
事業所長 山根 恵

在宅医療・介護保険相談センターの開設に伴い、在宅部門の二員として移転しました。在宅介護における悩みや支援について気軽に相談できる窓口として活用していただけたらと思います。よろしくお願いたします。

コスモスホームヘルパーステーション
事業所長 村上 洋子

国道沿いに事業所移転を機に訪問地域を山陰線、長安線方面にも拡大した利用者の在宅生活にお役に立てるようスタッフ全員でお手伝いします。

安岡ナイトヘルパーステーション
事業所長 植田 史

夜不安を感じながら過ごされている方、また遠方で心配されているご家族の方へ、スタッフが夜の安心をお届けします。連絡方法にTV電話を使用しているので、安否確認等多様な利用方法があり、夜の緊急時に対応します。

「老人保健施設コスモス」の移転計画

現施設が手狭で、5F建て有るがゆえにサービス効率等も低下しており、予てより明るく広々とした施設への思いは強かった訳ですが、今般、在宅医療・介護保険相談センターの対面一帯(横野町3丁目1-2他)が取得できましたことに伴い、来年秋頃にオープンの予定です。

有料老人ホーム

「バーデン・バーデン」新築へ

安岡病院
事務長 松井 利三

平成26年1月、住宅型有料老人ホームの供用開始に向け、7月に着工いたしました。場所は(横野町4丁目9-24)、松涛会第1駐車場の隣接地で、地積約519㎡、19室の計画です。

今日の医療・介護の更なる融合と在宅部門へ舵取りの流れは、一方では、サービス付高齢者向け住宅・有料老人ホーム等の増加に繋がっていることから、更に在宅復帰支援サービスの充実化に注力する必要性から建設に踏み切りました。

「バーデン・バーデン」は、ドイツの都市名で、ヨーロッパ有数の温泉地・保養地として知られ、ゆつくりとその人らしく自由に生活を創造していただきたい思いから命名いたしました。尚、モータールも気に入られ、奥様が長い間滞在したことでも有名です。



「口から食事が取れなくなったらどうしますか？」

安岡病院 院長 戸田 健一

日本は、急速に高齢化社会となり、認知症や脳血管障害の患者さんが増加しています。これらの患者さんは、後遺症で食べ物を飲み込むことが困難になることがあります。栄養は治療の第一歩といわれ、病気になる前にこそ栄養を取ることが必要になります。

口から食事が取れなくなった時に栄養をとる方法は、点滴と鼻から細いチューブを胃まで挿入し水分や栄養剤を流す経鼻経管栄養と膈孔(トンネル)を内視鏡(胃カメラ)を使ってお腹に造り、直接胃に栄養をいれる胃瘻栄養の二つがあります。

認知症や脳血管障害は、病気が年単位に及ぶことが少なくありません。点滴は、刺しかえや感染の問題があり年単位の長期管理には不向きです。経鼻経管栄養は、チューブから十分な水分と栄養の投与が可能です。チューブで鼻や食道が傷ついたり、チューブが誤って気管に入ってしまう危険性があります。また、患者さんにとつては、チューブは異物であり、不快感から無意識にチューブを抜いてしまいがちです。その都度チューブの交換が必要となり長期管理が難しくなることがあります。胃瘻栄養は、膈孔が完成すれば、患者さんの苦痛は少なく、介護者

にとつても取扱い易く長期の栄養管理には最適の方法となります。

日本では、胃瘻の造設は右肩上がりに増加し、2008年の新規の胃瘻造設は20万件、胃瘻チューブの交換は60万件と報告されています。この1、2年、新聞等で「胃瘻造設の功罪」を問う記事が掲載されています。確かに、胃瘻栄養は、長期管理のしやすい方法で、生命予後が延長し恩恵を受けている患者さんは少なくありませんが、一方、全く寝たきりとなり、自分の意思を伝えられなくなった高齢の認知症患者さんに延命のためだけに、胃瘻を造設することに疑問が投げかけられています。それぞれの患者さんの命の尊厳が問われています。

日本の高齢化は、2030年まで続きます。人工呼吸器の使用や人工透析と同じように、人生の終末期に、口から食べられなくなった時にどのような延命方法を選択するかをそれぞれが考え、家族と話し合い、元気な内に意思表示をしておく必要があると考えます。

それぞれの患者さんが、その人らしく最期を迎えることをお手伝いすることも安岡病院の役割の一つと考えています。一緒に考えていきましょう。

個々にあわせた外出支援

彦島拠点長 畑村 治子

5月8日(水)外出支援で火の山にある御利用様の別宅に行きました。

御利用者様にとつて長時間の外出は久しぶりの事で、小規模のスタツプが2人付き添いました。

別宅では、奥様が手料理を作って待つておられ、美味しい料理に舌つづみをうちながら、ゆつくりとした時間を御家族と過ごして頂きました。その日は晴天に恵まれ、ペランダから見える関門の絶景。そこを航行する日本丸も運よく見ることが出来ました。

御利用者様が、別宅に行かれるのは1年ぶりの事で日程が決定した時から、とても楽しみにされていました。個々によって楽しみ喜びは違います。御利用者様が生活をされていく中で少しでもその人に合った楽しみが感じられる様な施設にしていきたいと思っております。



第1回松涛会リハビリテーション研究会開催

リハビリテーション科 学習委員会 稲垣久美子

2013年2月15日に、第1回松涛会リハビリテーション研究会を開催致しました。他の部署、医療のみならず社会福祉の分野からも、多くの方に出席・意見をいただけ、リハビリテーションに対する取り組みや研究発表の場としてスタートをきる事が出来ました。今日、リハビリテーションは、患者様・利用者様・御家族様々々な職種といった大勢の方がいて成立します。今後、いろいろな形でリハビリテーションに携わる方々のアイディア・実践を持ち寄る場として会を重ねる事が出来

たらと思えます。そして、「よりよい」を提供できる松涛会を、内外に発信していきたいものです。



安岡病院「外来糖尿病予防教室」の開催

日本は世界有数の長寿国！
しかし、日本人の60%近くが生活習慣病を原因として病気で亡くなっているのが現状です。悪い生活習慣を続けていると生活習慣病の影が忍び寄ってきているのです。原因として若いころからの食生活や運動、睡眠、飲酒、ストレスなどがあげられます。そうならないためにも正しい知識を得て、生活習慣を改善いたしましょう。

安岡病院では皆さまの健康を守るために、「外来生活習慣病予防教室」を開催しています。昨年は試食会つきの「糖尿病予防教室」を開催、

カレーライスを提供し参加者の皆様に大変喜ばれました。今年も是非皆様の参加をお待ちしています。

本日のメニュー



栄養価	エネルギー	478kcal
	たんぱく質	19g
	脂質	10g
	塩分	2.8g

平成25年度第1回外来教室開催

6月28日(金曜日)平成25年度第1回外来教室を開催しました。

楠美先生の「胃酸逆流症」の講義は資料が漫画で解り易く、質疑応答も多数の方が参加され真剣に聞かれていました。参加者は「私はそうなのかも」と口々に言われ、とてもいい勉強になりました。たと話されていました。

安吉作業療法士の「靴の選び方、杖の使い方」の講義は、サンプルを持参し、実技を交え参加者が「この靴ねいいね」などの



声が聞かれ今後活かせる内容でした。
次は11月「糖尿病教室」を開催予定です。

山口県病院協会優良従業員表彰

薬局長 花谷美緒子

安岡病院で早20年の月日が流れました。

その間いろいろなことがありました。大腸がんを患い周りの方に迷惑かけたこと、でもそれ以上の励ましをいただいたこと、子育ての中、時間的な優遇を受けたこと、仕事がかまくらに挫折を感じたこと、なにもかもが大切な思い出となっています。

今回永年勤続の表彰をいただき、現在の自分に少し満足し、充実した気持ちで毎日の業務に取り組みたいと思います。

これからも自分を励まし、さらに頑張りたいと思います。

5病棟 介護士 川村 和子

入職時を今でも覚えていますが自己紹介の為に、朝礼でドキドキしながら自己紹介をしました。職場は活気に溢れており、生き生きとしていた職員が多かったと思います。組織や仕事での役割や知識や技術を学び、また私にとっては教育の場でもありました。その中で斎藤理事長の講演会があり、ユーモアに笑いながら楽しく傾聴した事を思い出します。入職して20年松涛会グループと共に成長させて頂いていることに感謝しています。



地域連携室の再編について

地域連携室リーダー 小池 義和

特定医療法人社団松涛会安岡病院地域連携室の再編にあたり、医療部門では本年6月1日より以下の3本の柱を中心に活動を展開して行きます。

まず、連携推進業務では外部医療機関や福祉施設等の担当者との情報交換連携窓口となり業務を拡大展開する。また、医療相談業務では医療相談員による医療や介護に関する相談対応や情報を提供し、患者や家族の方々が常に安心して相談・利用できるような努める。そして病床管理業務では患者の入院、退院、転棟を管理計画し病院全体の空床調整を行い、医療から介護へと移行する患者の連携窓口となり、滞る事なく在宅支援業務へ連携し、松涛会理念のもと
医療・介護・福祉の連携、地域との連携の推進により心豊かな地域社会に貢献して行きます。



「笑顔あふれる菖蒲見学」

オリープ生活相談員
中村 慎治

ケアハウスオリープも季節に合わせて外出行事を行っております。梅雨時期は、菖蒲が見ごろとなり、皆様、毎年東行庵に行くのを楽しみにしています。去年は大雨が続き、残念ながら中止になりましたが、今年には薄雲りの天候で、6月18日に行つてまいりました。

菖蒲見学は、東行庵に行くまでの途中も楽しいものです。深坂の自然公園や、菊川の田園風景を車窓から楽しめました。さて、東行庵に着いて真つ先に向かうのは、土産物屋さんです。毎年このことで慣れているのか、先に晋作もちを予約し、それから菖蒲の花を楽しまれました。一年ぶりの色彩々の菖蒲の花よりも、次々と焼きあがっていく晋作もちを眺める笑顔が、とてもいきいきしておられたような気がします。また来年、菖蒲の花と晋作もちに出会える日が楽しみです。



「手作りパン教室」

介護士
三浦 翔太



5月22日(水)はまゆう苑デイサービスセンターでは、パン教室を行いました。今回で2回目となりますが、手作りのパンは初めてだと皆様楽しまれていました。

今回作るのは、あんぱん、抹茶あんぱん、クリームパン、メロンパンの4種類です。初めは作り方の説明を聞いても、「戸惑つていきましたが、皆様すぐにコツをつかんだのか、気づけばあつという間にパンが出来上がりました。自分で作った出来立てのパンを食べ、「美味しかった！自分で作ったから二倍と美味しい！」「みんなで一緒に何かを作る行事は楽しい。またしてほしいです」との声がたくさん聞かれました。

今回のパン教室では自分で作ったパンを、施設内通貨「フック」で購入し持ち帰れるようにしました。ご家族の方々に持って帰れると皆様とても喜んでいただけただけでなく、ご利用者様の笑顔が眩しい1日でした。



「ゆめシティへ行く」

小規模多機能居宅介護 杜の宮
管理者 中堀 詔子

杜の宮では、日頃からご利用者様の希望を叶える行事に取り組んでいます。「買い物に行きたい」「寿司が食べたい」との声にお応えすべく、近場で食事と買い物を楽しめる場所を検討した結果、ゆめシティを先とし、3月の行事として実施致しました。皆さんの飲食店が立ち並ぶ中、ほとんどのご利用者は回転ずしを選び、新鮮な食材に舌鼓をうたれました。食後は店内を散策し、気に入ったお店に立ち寄られました。家族のお土産にと饅頭やお惣菜を買う方、洋服屋の店員さんに上着を選んでもらったり、小物入れを手に持ち「これを買おうかしら」と職員に相談を持ち掛けて品定めをされる方、思い思いに楽しく有意義な時間を過ごすことが出来ました。今後も、ご利用者様の声を聴き、ご希望に沿えるような、行事に取り組んで行きたいと思っております。



ねぎぼうす十周年を迎えて

生活支援ハウス援助員 齋藤 豊子



生活支援ハウスねぎぼうすは、平成十五年四月開設以来、早いもので今年十周年を迎えました。ねぎぼうすは下関在住の六〇歳以上の方で、独立して生活する事に不安がある方の生活を支援する施設です。緑豊かな田園に囲まれ、四季折々の木々や花など、自然豊かな環境に恵まれています。開設時、入居者様は皆さ

生活支援ハウス援助員 齋藤 豊子

んお元気で、毎月一回行われる交流会では、イングリッシュガーデンでお弁当やお菓子をいただきながら、ハーモニカ演奏や合唱等を行い、交流を深めていきました。現在は入居者様も高齢になられ、デイサービス等の介護保険をご利用の方も増えてきましたが、行事に積極的に参加される方もいらつしやいます。これからも地域の皆様と共に、ねぎぼうすで安心して健康的な生活が送れるよう、スタッフ一丸となって、頑張つていきたいと思っております。

認知症サポーター養成講座と介護保険勉強会

特別養護老人ホーム はまゆう苑
課長 松谷 法史

特別養護老人ホームはまゆう苑で、午前中、ビハラー(仏教婦人会)活動でボランティアに来ていた方々を中心に地域の方も参加し、認知症を理解しそのサポーターとなるための講習会が開かれました。経験談や朗読があり会場から笑い、時には涙する場面も見られました。講義の最後には認知症の人への対応の心得として、驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない、などの他、褒めることや笑顔の重要性も助言されました。

日時：平成25年5月25日(土) 13:00~15:00
場所：下関市横野町3丁目15番10号
はまゆう苑地域交流ホーム
参加人数：60名
主催：認知症を地域で支えるまちづくり
下関ネットワーク委員会
特別養護老人ホームはまゆう苑

下関市と釜山広域市との民間サイドにおける
松涛会との活発な交流活動

下関市と釜山広域市との姉妹都市締結37周年記念行事として、25年7月23日より「韓国伝統生活文化体験展」が開催され、松涛会 齋藤理事長・副理事長が開設に当たりテープカットをされました。併せて、25日、主催者「社団法人韓国社会福祉研究所」と「松涛会」との間におきまして、医療・介護・福祉分野における情報交換等の活発な交流



を図ります「社会福祉交流協定の調印式」が執り行われました。

「夏祭り」を終えて

ケアタウン山の田
拠点長 黄丹絵美子

7月20日、山の田内科の佐田院長による開会宣言でケアタウン山の田の第4回夏祭りが始まりしました。焼き鳥、たい焼き、ねぎ焼きなどの模擬店の中でもかき氷の前には長い列が出来、ゲームコーナーでは地域の子供たちの笑い声があふれ、休憩コーナーでは入居者様の三代、四代の家族の肖像を写真におさめる事が出来ました。カラオケ大会のオープニングソングは手話を交えた「上を向いて歩こう」。事業所ごとの合唱や毎年大トリを飾っていたたく本部事務長の「祭り」。等々。会場全体に広がる歌声や手拍子で大いに盛り上がりしました。今年の神輿は地元の酒造会社からお借りした酒樽に手を加えた手作り神輿。そして夏祭りを締めくくる最後は「平家踊り保存会」の方の迫力一杯の生演奏に踊ることも忘れて聞き惚れてしま

いました。

業務をこなしながら準備に奔走した実行委員職員。昨年「どうしてうちのおばあちゃんは浴衣を着てないの」とお孫さんの言葉に発奮して今年全員に浴衣をお着せしようと頑張ったグループホームの職員。皆様の200%の笑顔を引き出そうと職員が二つになり頑張りました。又、この暑い夏の日、この夏祭りに参加していただいた地域の方々、ボランティアの方々、ご家族の方々、このケアタウン山の田を支えて下さる全ての方に感謝いたします。この複合施設が地域に溶け込んで地域の方々からも愛されるようなケアタウン（町）づくりをしたいとの願いが少しだけ、かなったのではと実感させられる夏の一日でした。



おめでとう 平成24年度資格取得者一覧

医療法人

- 〈看護師〉3名
・清水 博子(安岡病院 看護部)
・岡林 真理(安岡病院 看護部)
・永尾恵美加(安岡病院 看護部)
- 〈准看護師〉4名
・寺岡千代美(安岡病院 看護部)
・中村 京子(安岡病院 看護部)
・田北 彩夏(安岡病院 看護部)
・古宮 優子(安岡病院 看護部)

- 〈介護支援専門員〉13名
・境 礼子(安岡病院 看護部)
・田中 美典(安岡病院 PT)
・藤岡 浩司(安岡病院 PT)
・中野 修(安岡病院 PT)
・相良 昌徳(安岡病院 PT)
・山口 陽子(安岡病院 OT)
・中村 洋子(安岡病院 OT)
・安吉 洸星(安岡病院 OT)
・胡摩田美子(GHわたぼうし)
・奥 美代子(小規模多機能江の浦)
・河村 有美(小規模多機能江の浦)
・渡邊小津枝(GH江の浦)
・有馬みのり(彦島ショートステイ)

- 〈介護福祉士〉8名
・宮田 洋人(安岡病院 看護部)
・山田 裕之(安岡病院 看護部)
・山本 優子(安岡病院 看護部)
・畔永真由美(コスモス通所)
・本網百合枝(コスモス通所)
・中島 一圭(小規模多機能江の浦)
・藤田 満子(小規模多機能江の浦)
・松本比朗子(いるかデイサービス)

社会福祉法人

- 〈介護支援専門員〉4名
・植田 学(はまゆう苑)
・永田 良江(GHフロイデア彦島)
・前田 桃子(あやらぎデイサービス)
・池田 栄子(フロイデアハイム)
- 〈介護福祉士〉11名
・中野 紋史(はまゆう苑)
・小出 志乃(あやらぎデイサービス)
・國本 清美(あやらぎヘルパー)
・山本 淳美(GHフロイデア彦島)
・松永 幸子(フロイデアハイム)
・山縣 友視(杜の宮)
・下川 一己(はまゆう苑)
・眞崎 理恵(あやらぎヘルパー)
・安川志津子(あやらぎヘルパー)
・大越 未麻(GHフロイデア彦島)
・佐二本眞実(フロイデアハイム)



フロイデ金比羅完成予想図

- 建設地 下関市金比羅町 1099 番地
鉄骨造一部鉄筋造 地上5階・地下2階建
- 同一建物内に特養、グループホームを核とした、一連の介護サービスを整え、高齢利用者の住み替えに沿った、「川上から川下までの多機能複合施設」です。地域住民の集会施設、防災拠点施設として開放します。
- 1階 グループホーム・小規模多機能型
居宅介護・訪問介護・訪問看護等
- 2階 特別養護老人ホーム 29床
- 3階 短期入所生活介護 29床
- 4・5階 サービス付高齢者向け住宅 12戸、集会場



国道191号線と県道福浦港金比羅線の四差路の交通の要所にあり、「金比羅」バス停の近くです。

下関市金比羅町に多機能複合施設 「フロイデ金比羅」オープン!!

(平成26年4月オープン予定)



地域と共に地球環境活動
横野海岸の一斉清掃
6月16日に横野町自治会
他ボランティア約100
名と松涛会スタッフ約70名
が横野海岸清掃を行いま
した。



韓国青少年
ボランティア来関
8月5日韓国青少年ボラ
ンティアが来関し、西山海
岸清掃とフロイデ彦島施
設見学を行いました。

社会福祉法人松涛会 平成24年度 決算報告

平成24年度貸借対照表
(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

流動資産	845,952	流動負債	97,286
固定資産	2,906,494	固定負債	480,522
(基本財産)	2,525,538	基本金	1,018,688
(その他固定資産)	380,956	国庫補助金等特別積立金	659,953
		次期繰越活動収支差額	1,495,998
		(内当期活動収支差額)	63,871
資産の部合計	3,752,447	負債及び純資産の部合計	3,752,447

脚注 減価償却費累計 1,429,036千円

平成24年度事業活動収支計算書
(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：千円)

事業活動収入	1,162,968
事業活動支出	1,092,499
事業活動収支差額	70,469
事業活動外収入	134,765
事業活動外支出	141,207
経常収支差額	64,026
特別収入	7
特別支出	162
当期活動収支差額	63,871
前期活動収支差額	1,432,127
当期末繰越活動収支差額	1,495,998
基本金取崩額	0
次期繰越活動収支差額	1,495,998